

“少数多体問題の観点からのストレンジネスを含むエキゾチックな原子核”

Exotic Nuclei with strangeness from view point of few-body problem

准主任研究員 肥山 詠美子 氏

(理化学研究所 仁科加速器研究センター肥山ストレンジネス核物理研究室)

Dr. Emiko HIYAMA

(Strangeness Nuclear Physics Laboratory, RNC)

原子核物理学の大きな研究目的の一つは新しい核（同位元素）を発見すること、すなわち、核図表を広げることであり、不安定核研究などの大きな原動力となっており、理化学研究所のRIBFプロジェクトが目指す重要課題となっている。また、新しい量子数-ストレンジネス（奇妙さ）-を第3軸に加えた壮大な3次元的核図表を構想し、その拡充・拡大を目指しているのが、核物理学におけるもう一つの最前線である。現在、ストレンジネスを含む原子核（ハイパー核）の生成実験が、J-PARC、JLab, Mainzで計画中もしくは実施中である。ここでは、ハイパー核の構造の面白さ、今後の研究の展望を少数多体系問題の観点から紹介する。また、不安定核物理研究との類似点も含めて講演を行う。

Language: Japanese
(講演言語：日本)

2013年11月26日（火）13:30 -
於 仁科ホール、仁科記念棟2階

Contact: RIBF Nuclear Physics Seminar Organizer
npsoc@ribf.riken.jp
<http://ribf.riken.jp/~seminar/>